

【技術名】湛水直播栽培

湛水直播栽培で、育苗いらずの低コスト化が可能！

【技術の要約】

多目的田植機や専用機を用いて、過酸化石灰粉粒剤（以下、カルパー）または鉄粉を被覆したコーティング種子（以下、鉄）を代かき後のほ場に直播することにより、収量は移植栽培より5～10%少ないですが、概ね20～30%の労働時間の削減と作期分散が可能です。

【技術の内容】

1 コーティングの種類

表1のとおりコーティングの種類によって長所短所がありますので、導入にあたっては検討が必要です。カルパーでは加温処理を行うと出芽が早まります。

2 播種・播種後の管理

播種時期は播種後10日間の平均気温が13℃以上となる日以降です。

カルパーは土中播種、鉄は表面播種となりますが、どちらも出芽するまでは原則として落水します。滞水したところは出芽が悪くなるので、ほ場の均平作業が重要です。

3 出芽後の管理

カルパーは7～10日、鉄は10～14日程度で出芽しますが、出芽前後から雑草防除を徹底します。また、出芽確認後から湛水管理を行い、鳥害を防止します。その後は概ね移植栽培と管理は同じです。

4 直播栽培のメリット

直播栽培は出芽までの管理がカギとなりますが、そのノウハウを体得し導入拡大することにより、作業時間の削減（表2）や生育ステージの分散による収穫作業の集中回避が可能となります。

表1 コーティング種子の特徴

	カルパー	鉄
メリット	<ul style="list-style-type: none">・出芽、鉄より安定・播種量少なくてよい・殺虫剤同時コーティング、加温処理可能・多目的田植機対応可能	<ul style="list-style-type: none">・農閑期にコーティング作業可能・長期保存可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・保存は2週間程度	<ul style="list-style-type: none">・出芽期間長い・倒伏弱い・葉害出やすい・専用播種機必要



図1 コーティング種子 左：カルパー 右：鉄



図2 多目的田植機による直播作業

表2 10aあたりの労働時間の比較

	移植栽培(h)	直播栽培(h)	削減率(%)
育苗・コーティング時間	2.2	0.2	91%
全作業時間	14.4	11.1	23%

【留意事項】

- 1 この技術は、昭和58年度普及技術、平成15年度・平成20年度技術情報です。
- 2 雑草イネが発生しているほ場では、直播栽培における防除ができませんので、移植栽培としてください。